

アラフィフ(50歳前後)は企業のトップとして最も旬な年代だと思う。経験、知力、気力、体力、いずれも充実している。多国籍企業の最高経営責任者(CEO)は、ほとんどこの年代

に入っている。これに対して日本企業の社長の大半は、50歳代半ばから60歳代半ば。この年代のことを「アララカン」というらしい。この10年の違いは「やっとなることがない事」について意思決定する際に明らかに

インディゴブルー会長

柴田 励司



1985年上智大文芸。マーサージャパン社長、カルチニア・コンビニエンス・クラブの最高執行責任者(CEO)などを経て、2010年インディゴブルー社長、15年からの会長。

なる。

アラフィフの場合、仮に境の中のかじ取りが求められる状況の中、アラフィフの経営層を育てたい。その失敗したとしても自分の現役時代に挽回できることを考え、20代後半で部長、30代後半で部長、40代後半で部長になる人材を育てたい。アラフィフは即断できない。本能的に必要な人材を育てたい。となると25歳から30歳まで年過ぎしてしまう。

育て！アラフィフ経営者

打ち込み、いわゆる著名大学院には入学しなかつたが、

自分の時間がないことを「目立って」いく。そこで3年ほど前に、志す企業に「特定スキル」として「ボートクルーズスキル」と「心のサポートスキル」と「心の鍛え場」として「PHAZE」という社団法人を立ち上げた。日本を代表する企業で将来は経営幹部として大きな仕事をしてみたいという意欲をもつ若者を募集。10人程度を選抜し、E」を構築してほしい。